

CORIAN®

NEWS

小田急電鉄 ロマンスカー・GSE (70000形)

明るくモダンな空間で
優雅なひとときを

小田急電鉄 新宿駅西口地下改札&トイレ

観光地と街の間に
心安らぐ場所を

日本圧着端子製造 東京技術センター

働く環境を心地よく整えた
世界基準のモノづくり拠点

コクヨ 品川SSTライブオフィス

見て、触れて実感できる
未来へと続くストーリー

東京山手調理師専門学校(認可申請中)

ホテルのようなラグジュアリー感で
学生を受け入れる専門学校

ミラノデザインウィーク2018/Peep

素材の可能性を拓ける
デザイナーの視点

ちぼり湯河原スイーツファクトリー

甘く幸せな香りが漂う
お菓子広場のシンボル

クリナップ ステンレスキャビネットキッチン「STEDIA(ステディア)」

空間と調和するキッチンに
コーリアン®の特注色



明るくモダンな空間で
優雅なひとときを

小田急電鉄 ロマンسカー・GSE (7000形)



岡部憲明アーキテクチャーネットワークが設計を手掛けた既存車両のロマンスカー・VSE(5000形)でも採用されている手洗いボウルをはじめ、座席間の窓際に設置されたテーブルなどにもコーリアン®が使用されている。

2018年3月、新宿と箱根、江の島などの観光地を結ぶ小田急電鉄の特急ロマンスカーに新型車両「GSE(7000形)」が登場した。「GSEは、ロマンスカーの伝統的なスタイルを継承し、同年7月に惜しまれつつ引退した車両「LSE(7000形)」の代替車として計画されました。最大の魅力は、車窓からのダイナミックな眺望です」と説明してくださったのは、小田急電鉄の車両担当・松下陽士氏。

ロマンスカーの象徴ともいえる「展望席」のある先頭車両は、フロントガラスに大型の曲面ガラスを採用。さらに荷棚を設けないことでダイナミックな眺望を実現している。また、車体側面の窓には高さ1mの曲面ガラスを採用し、一般席でも風景を存分に楽しめる設計になっている。

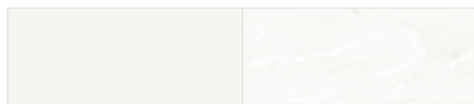
車両設計を担当した岡部憲明アーキテクチャーネットワーク代表の岡部憲明氏にもお話をうかがった。「私たちがデザインの本质で大事にしているのは、内部空間をいかに広く獲得するかということ。そこが、居住性を豊かにする最大の要素だからです。空間的に余裕があるとはいえない車両の設計では、荷棚のインパクトを最小限に抑え、天井を広く見せることが必要でした。そこで、空に浮かぶ雲のようなやわらかい表現で空間性を損なわない荷棚をデザインしました。」

曲線を描く荷棚の下面と、窓の間のキセ部分の素材に採用されたのがコーリアン®だ。「加工性だけでなく、視覚的に伝わるテクスチャーも意図する空間性につながる素材でした。通常、木質系の温かさを適度に入れる、というのが私たちの設計方針ですが、GSEでは、より明るく、モダン性をもう一步押し出そうという意識がありました。コーリアン®は木や石のように誰もが感じる優しい印象のテクスチャーと、モダンな表現力をあわせ持つ素材だと思えます」と岡部氏。

同事務所の山口浩司氏も、コーリアン®を選んだ理由について次のように語ってくださいました。「耐火性や安全性など、車両に使用する素材にはさまざまな制限があります。そうした条件をクリアしつつ、自由な形状をつくれること、さらに比重が2を切る軽さも決め手になりました。私たちにとってはキッチントップをはじめ、非常に馴染みのある素材で、耐久性にも信頼があり、メンテナンスがしやすいこともよく知っていましたので、自信を持って選ぶことができました。」

不特定多数の乗客がさまざまな条件下で利用する車両空間では、あらゆるケースを想定して、設計・デザイン、素材の選定を行わなければならないという。それでも、ロマンスカーに乗り込んでいるひとときを、より快適に、優雅に過ごしてほしいと、電鉄会社とデザイナーが力を合わせて、これまでにない提案を詰め込んで生み出したのが、ロマンスカー「GSE」だ。「車両づくりは非常にシビアな世界です。その中で、新しいことに挑戦できるといえるのは、小さな一歩ではなく、大きな前進と言えます」と岡部氏。それはコーリアン®にとっても大きな一歩であることは間違いない。

使用色(左から)
カメオホワイト、シラスホワイト



- 企画・運営 小田急電鉄株式会社
- デザイン 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク
- コーリアン®加工協力会社 株式会社エイベクス



観光地と街の間に 心安らぐ場所を

小田急電鉄 新宿駅西口地下改札&トイレ

男性用トイレ、女性用トイレとも広々とした空間に、ラウンドデザインやウッディな素材を採用し「駅の喧騒の中、ひととき安らぎを感じる場所としてのトイレ」を演出。ユニバーサルデザインを採用し、天然オイルを活用したアロマや四季に合わせた生花も常時飾られている。手洗いカウンターやパウダールームのカウンターに加え男性用小便器の後ろのライニングにもグララサホワイト、ブース内の洋便器上のライニングにはグレイシアホワイトを使用。
PHOTO : Kenjiro Yoshimi (studio BAUHAUS)

小田急電鉄では、2014年から新宿駅中央連絡口改修工事に着手し、西口地下改札周辺のリニューアルを進めてきた。2017年12月には、その仕上げともいえる改札内トイレの改修が完了。先行してリニューアルを終えていた改札と相まって、一帯が明るく、便利に生まれ変わった。

「1日に平均約50万人の乗降がある小田急線最大の駅として、また、箱根や江の島への玄関口としてもふさわしい、ランドマークとなるような空間を目指しました」と話してくださったのは、小田急電鉄の立山仁章氏。トイレと改札の間などに配置されたガラス壁にはストライプや波の泡をイメージした丸模様、寄木細工模様があしらわれ、新宿の都会的な印象や観光地につながるわくわく感を演出している。また、トイレ内を含め、空間一帯がラウンドデザインで統一され、やわらかい印象が演出されている。コーリアン®で製作された改札中央カウンターも、丸みを帯びたU字型だ。

改札周辺の設計・監修・施工を担当したのは総合建設会社のフジタ。「カウンターはアール加工がきれいにできる素材という点で、コーリアン®を選びました。片側約7mの長さのあるカウンターを継ぎ目なくつくることのできたのもコーリアン®ならではですね。色については、キャリーケースなどを持つて通る方も多いため、側面には傷や汚れが目立ちにくい、柄のある濃色を選びました。天板については、カウンター上部が光天井になっているので、落ち着いた白系を使用することで、きれいに反射し、明るい空間になるのではないかと考えました」と、同社の鈴木沙祐里氏。

既存の広さの中に決まった数の改札を配置しなければならぬなど、サイズ面での制約



もあるため、天然石などに比べて、下地に幅をとらない点も決め手になったそう。

また、面積を改修前の2倍に拡張、授乳室やパウダールーム、情報ディスプレイなど、さまざまな機能を備えて、「快適すぎる」と各方面で話題になっている改札内トイレの随所にも、コーリアン®が採用されている。設計を担当した設計事務所コンドラによると、「多様な人々に利用される駅のトイレとして、水回りには耐久性、耐水性、加工性、清掃によって常に新鮮味を失わない復元性に優れたコーリアン®を選択しました。また、硬質な素材に囲まれたトイレに、マットな優しい素材感が加わることで安らぎを感じられ、利用されているのではないのでしょうか」とのこと。

また、前述の立山氏は「弊社では10数年前から駅のトイレを快適にすることで、会社のイメージアップを図ろうと、各駅で改修工事に取り組んできました。新宿駅は、これまでの集大成であり、これからの先駆けになるトイレにできたのではないのでしょうか」と話してくださった。

使用色 (左から)
レインクラウド、グラーサホワイト、グレイシアホワイト 他



- 所在地 東京都新宿区西新宿 1-1-3
- 設計(改札周辺) 株式会社フジタ一級建築士事務所
- 設計(トイレ) 有限会社 設計事務所コンドラ
- 施工 株式会社フジタ
- 施工協力 信越ファインテック株式会社
- コーリアン®加工協力会社 大日化工業株式会社

働く環境を心地よく整えた 世界基準のモノづくり拠点

日本圧着端子製造 東京技術センター

1957年創業の日本圧着端子製造は、携帯機器や自動車などに使用される電子接続部品コネクタのメーカーで、国内NO.1のシェアを誇るリーディングカンパニー。世界18カ国に拠点を持つグローバル企業で、国内にも22の拠点を置く。開発拠点の一つ「東京技術センター」の新棟が2017年末に完成。設計・監理を手掛けたのは岡部憲明アーキテクトネットワーク。同事務所が日本圧着端子製造の建物を手掛けたのは、東京技術センターで6つめになる。

「今回は、一期工事として2009年に竣工した棟と中庭を挟んでつながる新棟を増築し、この二期工事で東京技術センターの建替えが完了しました。新棟は地上5階、地下1階の建物で、業務に必要な空間をコンパクトにまとめながら、吹抜けや屋上菜園を設けるなどして、心地よく働ける環境を整えています」と岡部憲明氏。

2階から4階は、営業職のスタッフが使用する執務スペース。各階をつなぐ吹抜けに面して開かれたオープンスペース型のオフィスは、間接照明の光がやわらかく反射する筒型のポルト天井が特徴的な空間だ。曲線の美しい天井に合わせてデザインされた照明は「コリアン」で製作。

「天井というのは、空間の中で視界に占める割合も大きいので、大事にしている部分です」と話す岡部氏の手掛ける建築では、天井裏には空調ダクトを配置せず、天井の高さを確保し、点検口などデザイン的に余分な要素を増やさず、照明の光源を見せないなど、いくつかの共通するルールが適用されている。

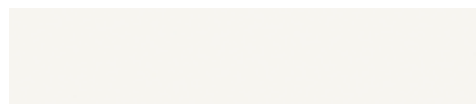
「今回は、一期工事と同じポルト天井を採用しました。連続して美しく納まる天井に対して、照明器具も同じぐらいの精度で納めたいと考えました。既製品の照明器具を使用すると、ど



うしても継ぎ目が生まれてしまいましたが、シームレス接着ができるコーリアン。なら、理想的な照明器具をつくることのできるのではないかと考えました」と同事務所の山口浩司氏。そこで、長さ4900mmの照明をコーリアン®で製作し、ポールの間から吊り下げるプランを作成。照明器具自体は骨組みや継ぎ目がまったく見えないう仕上げで、天井への取り付け部分も見えにくく工夫されている。「コーリアン®は、それ自体で形をつくることのできるもので、必要なパーツが少なくなり、コスト的にも十分見合うのではないかと判断しました。実際、既製品のデザイン照明を使用するよりもコストを抑えることができました」とのこと。

「オフィスであっても、空間の豊かさやアットホームな部分が必要だと考えます。日本圧着端子製造のオーナーはそうした考えにも非常に理解をお持ちです。グローバルな企業ですからなおさら、そうした意識が高いのかもしれない」と岡部氏。心地よく整えられたオフィス環境からは、企業としての魅力が底上げし、優秀な人材の確保、定着につなげたいという想いも伝わってくる。

使用色
カメオホワイト



- 所在地 神奈川県横浜市港北区樽町4-8-24
- 設計・監理 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク
- コーリアン®加工協力会社 株式会社エイベクス



見て、触れて実感できる 未来へと続くストーリー

コクヨ 品川SSTライブオフィス

コクヨが全国で展開している「ライブオフィス」をご存じだろうか。大手文具メーカーとして広く知られる同社だが、実は、文具やオフィスファニチャーといった「モノ」のみにとどまらず、オフィスの空間の在り方を通じて新しい働き方の提案にも力を入れている。「ライブオフィス」は、同社の社員が実際に働いている姿を公開し、働き方に関するさまざまな課題を解決する「オフィスの使い方」を具体的に提案するという画期的な取り組み。約50年前にスタートし、現在では「鶴が関ライブオフィス」、「梅田ライブオフィス」、「名古屋ライブオフィス」をはじめ、全国28拠点に設けられている。

今回ご紹介する「品川SSTライブオフィス」は、2017年10月、首都圏に分散していたいくつかの拠点を統合移転する形で新設された。「移転にあたり、弊社の社長から、これまで別々だったステーションナリー部門とファニチャー部門が集約されたということを実感し、この先のコクヨが目指すべき姿を体感できるオフィスにしたいとの要望がありました」と、新オフィスのデザインを手掛けた同社の石井一東氏。その要望を形にするべく、エントランス空間のコンセプトを「ONE STROKE・NO LOOP・NO END」とし、空間全体で、「一本の太い線として未来に向けて成長し続けること」をダイナミックに表現。床に貼られた150mm角のモザイクタイルを起点に、「コアリアン」でつくられた造形が、ベンチからテーブル、ディスプレイへと連続して変化しながら、最後は天井へとつながっていくデザインで、同社の過去・現在・未来を具現化した。オフィスを案内してくださった同社ファニチャー事業本部の近藤崇弘氏によると、「弊社の事業は一枚の紙からスタートし、次に帳簿を収めるキャビネットなどの家具づくりがはじま



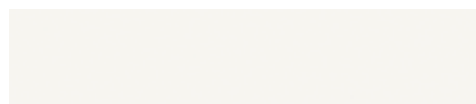
1 コーリアン®でつくられた「ストーリング」はまるで宙に浮かんでいるように見えるが、ミラーステンレス製の脚部に床材のタイルが映り込むように計算して、浮遊感を演出。2、3「品川SSTライブオフィス」は約1460坪のフロアのほとんどがフレキシブルなオープンスペースで、エリアごとにテーマを変えてさまざまな「働き方」「オフィス空間の在り方」を提案。(画像提供:コクヨ株式会社)

りました。やがて文具や家具を売るだけでなく、空間を構築する事業へと拡がっていった歴史も表現されています」とのこと。

「デザインの核となっている「コーリアン®」でつくられた未来へと向かう一本の線には、「ストーリング」という名前がつけられている。「ここから新しくストーリーが生まれ、続いていくという意味と、一本の線をあらわすストーリングの意味を込めました」と石井氏。その素材として、コーリアン®を選んだ理由もうかがった。「床から天井まで、連続する面材でつながっていくデザインのため、ジョイントが目立たないことが条件でした。さらに、ベンチやテーブルとして利用することを想定していましたので、人が触れたときの温かみや感触も重視しました。空間や肌馴染みやすい独特の優しい素材感を持つ「コーリアン®」を中心に置いたことで、エントランス全体の印象が未来的になりすぎず、やわらかく仕上げることができたと思います。」

モダンな中にも、心地よさや人に寄り添う温かみを忘れないデザインに、同社らしさを感じた。

使用色
カメオホワイト



●所在地 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス18F
<https://www.kokuyo.co.jp/com/liveoffice/>
 ●デザイン コクヨ株式会社

ホテルのようなラグジュアリー感で 学生を受け入れる専門学校

東京山手調理師専門学校（認可申請中）

2019年4月、世田谷区に東京山手調理師専門学校（認可申請中）が誕生予定だ。開校に先立って完成した校舎は既存のオフィスビルを全面リニューアルした建物。調理に使われる「火」をイメージした赤色をアクセントにしたモダンな外観は、デザイナーズホテルのような佇まいだ。「こちらは、大阪の学校法人である村川学園の東京での2校目の調理師専門学校になります」と案内してくださったのは施工を担当した薩摩建設の松村俊明氏。2016年に渋谷に開校した同法人の山手調理製菓専門学校の施工も手掛けたそう。「世田谷の校舎は、内装をスケルトン状態に戻してからの大規模なリニューアル工事でした」と松村氏。建物内には、和洋中の実習室をはじめ、寿司カウンターやバー、カフェトレニングのためのケーキショップなども備えている。「学校らしくなくというのが、デザインのコンセプトでした」と説明してくださったのは、設計を手掛けたマッズプランニングの神山新氏。調理師専門学校として必要十分な機能を満たしながら、上質感やインテリア性、遊び心のあるデザインを取り入れ、他校との差別化を図ったという。「クライアントは、数ある競合校の中から、より多くの学生に選んでもらえるよう、プログラムや設備を充実させるだけでなく、校舎のデザインもPRやブランディングの一環と考えています」と神山氏。各階の実習室もデザイナーズレストランのキッチンさながらだが、圧巻は、何といても2階まで吹抜けの広々としたエントランスホールだ。木製ルーバー貼りの天井と大理石調タイルの床、ラグジュアリー感溢れる中に大きなインテリアがゆったりと配置され、正面奥には、ほんのり輝くコアリアン®で作られた受付カウンター。まるでホテルのロビーのような空間が広がっている。「2階天井の照明と1階のインテリア、受



付カウンターのデザインをすべて「サークル」でリンクさせています。上下階を一つの統一された環境として捉えられるように設計しました。

受付カウンターは、大きな弧を描きながら隣接する壁に吸い込まれていくダイナミックかつ繊細な形状。カウンタートップから側面、蹴込み部分まで、デュボン™フレイベートコレクションのシラスホワイトを用いて、曲げ加工とシームレス接着で、流れるようなフォルムを実現している。「アールのデザインでは、目地やつなぎ目が多い」という点で、「コーリアン」を使うことが多いですね。独特の素材感も、やわらかさや上質感を演出できる要素だと感じます」。水回りはもちろん、店舗のカウンターなどで、白系の「コーリアン」を採用することが多いという神山氏。「ポリウム感のある造作に用いる場合、単色の白だとのっぺりとした印象になりがちなので、流れ模様の白系の中で一番上品に感じるシラスホワイトを選ぶことが多いですね」と話してくださいました。

次の春には、この美しく整えられた校舎に多くの学生が集い、活気で溢れていることだろう。

使用色
シラスホワイト



- 所在地 東京都世田谷区深沢8-19-19
- 運営 学校法人村川学園
- 設計 株式会社 マッズプランニング
- 施工 薩摩建設株式会社
- コーリアン® 加工協力会社 株式会社 インテック

素材の可能性を拓ける デザイナーの視点

ミラノデザインウィーク 2018 / Peep

安藤北斗氏と林登志也氏によるコンテナポラリーデザインスタジオ「we+」が、ミラノデザインウィーク2018の期間中に開催された「Materials Village」で新作「Peep」を発表。その一部に「コリアン®」が使用されたということでお話をうかがった。

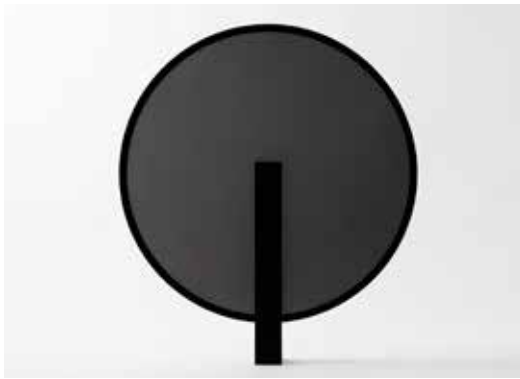
「Peep」は、通常では見ることのできない光学現象を可視化する照明とパーティションのシリーズです」と安藤氏。原型は2017年にMaterial Connection Tokyoが東京で開催した「MATERIAL DESIGN EXHIBITION 2017」で制作。さまざまな素材の持つ可能性をデザイナー

の視点で引き出し、新しい用途に「つながり道筋を紹介する企画展で、we+はNBCメッシュテックとコラボレーション。通常は医療用のフィルターやシルクスクリーン印刷の版などに使われる高精度メッシュの新たな使用方法を探った。そのプロセスの中で生まれた作品をアップデートし、ミラノで発表したのが「Peep」だ。

「当初は新しい用途を見いだすまでのプロセス

を見せることが目的でしたが、さらに作品としての強さも打ち出したいと考え、メッシュ以外の素材を見直すことにしました」と林氏。そこで照明・パーティションとも筐体部分の素材を「コリアン®」に変更。「ミシンでは作品が手に取られることが多いのですが、人の手というのは、触るだけでさまざまな情報を感じとります。コリアン®は、触れることでも「上質感」を伝える素材だと思えます。また、無垢から削り出したかのようにジョイント部分が見えない仕上がりも、プロダクトとしての精度の高さとなり、人の目にきちんと伝わるのではないかと考えています」と安藤氏。

「コリアン®の加工を手掛けたのは、大日化成工業。今回はインテリアとしての高いクオリティを保ちながら、機械部品としての寸法精度や強度を保つ必要もありました。試行錯誤を重ね、新しい加工方法にも挑戦しました」と同社の平澤正嗣社長。驚くことに、デザイナーのクリエイティブな発想は、「コリアン®の可能性」もいつの間にか拡張していたようだ。



「Peep」

高精細のメッシュを介して光や風景を眺めることで生まれる“分光”や“モアレ”といった現象を抽出し、「Peep = 覗く」ことで、異次元の世界を体感できる照明(上)とパーティション(下)のシリーズ。

PHOTO: Masayuki Hayashi

使用色

ディープロクターン



●デザイン we+ inc.

<http://weplus.jp/>

●コリアン® 加工協力会社 大日化成工業株式会社



甘く幸せな香りが漂う お菓子広場のシンボル

ちぼり湯河原スイーツファクトリー

贈答用アソートクッキーのバイオニアである「ちぼり」が、2017年11月に湯河原の自社工場を、直営ショップなどを併設した「五感で楽しむスイーツファクトリー」としてリニューアル。「当社初の小売店舗ともいえる『お菓子の道の駅』のイメージで、お客様の反応も直接わかりますね。リニューアルにあわせて湯河原のみかん、片浦のレモンを使った当地スイーツも開発しました」とお話しくださったのは「ちぼり湯河原スイーツファクトリー」店長の大木弘丈氏。

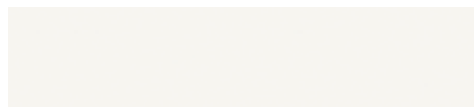
店舗設計を手掛けたのは wachinet の和知暖子氏だ。「菓子工房やカフェ、体験コーナーなども併設し、地元の方々と観光客の方々にも立ち寄っていただけるスペースを提供したい」とのお話でした。限られた面積に多彩な要素をどのように収めるのがよいか検討しました。そこで、社名である「ちぼり」の名前の由来となったイタリアの都市「チボリ」の噴水からイメージを膨らませ、円形広場の周りにお菓子のマルシェが広がるというコンセプトを提案。「中心には、ちぼりさんのロゴを立体化したオブジェをつくらうと思いました。和知氏はそのアイデアを、店舗の施工を担当する石渡産業の石渡慎一氏に相談。「中心に置くオブジェとしてふさわしい品格があり、お菓子の材料をイメージさせる白を使いたい」という話を聞き、素材にはコーリアン®がよいのではないかとお勧めしました」と石渡氏。「自然素材に匹敵する素材感や華やかさがあり、衛生的。未長く同じ場所にあり続けるシンボルの素材として経年変化が少ない点もびつたりでした」と和知氏。早速、コーリアン®の加工を数多く手掛けるエイベックスの榎本治展氏を交え、三者でイメージを形にしてゆく作業がはじまった。「デ

ザイン性」と「コスト」強度」を両立するため、さまざまなつくり方が検討されたが、最終的には榎本氏からの提案でドーナツ状のパーツを30〜40層に重ねてつくる方法を採用。「設置後に分解して移動する可能性があるということや安全面も考慮してこの構造がベストだと判断しました」と榎本氏。

こうして完成した噴水のオブジェは、砂糖菓子やメレンゲのように美しく上品な佇まいに。甘い香りに満たされた店内で、次々に生み出されるおいしい笑顔を象徴するように、時を超えて輝き続けるシンボルとなることだろう。



使用色
カメオホワイト



- 所在地 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥 1-15-4
<http://www.tivoli-factory.com/>
- 運営 株式会社ちぼり
- 設計 wachinet 和知暖子
- 施工 石渡産業株式会社
- コーリアン®加工協力会社 株式会社エイベックス

空間と調和するキッチンに コーリアン®の特注色

クリナップステンレスキャビネットキッチン
「STEDIA(ステディア)」



クリナップは、発売35年のロングセラーであり同社を代表するステンレスキャビネットキッチン「クリンレディ」の後継機種として、新ブランド「STEDIA（ステディア）」を発表。2018年9月3日から受注を開始する。

「お気に入りのテイストで揃えた居心地の良い空間（大人インテリア）」をデザインコンセプトとする「ステディア」は、「クリンレディ」の特徴である「ステンレスエコキャビネット」「流レールシンク」「洗エールレンジフード」などの機能的なアイテムはそのままに、フロアコンテナ（足元収納）の意匠を一新。扉面材には、北欧テイストやフレンチレトロ、ヴィンテージ風など、さまざまなデザインテイストに対応する5クラス38色を揃えて、これまでに以上にリビング・ダイニング空間と調和するシステムキッチンになった。そして、ワークトップには、コーリアン®の流れ模様の特注色5色がラインナップに加わっている。

コーリアン®の特注色採用について、「ステディア」の開発を担当された同社の大澤春菜氏と本間永一氏にお話をうかがった。

「クリンレディは35年の実績があり、こうあるべき、というデザインの方向性がかなり絞りこまれていました。そこでステディアの開発にあたっては、デザイン面で今までとは異なるアプローチが必要だと感じていました。そのような中で、コーリアン®の特注色のお話が浮上しました」。

システムキッチンのワークトップとして確固たる実績のあるコーリアン®の中でも、この数年、商業施設での採用例を目にする機会が多く、バリエーションも増えた「デュボン™プライベートコレクション」には特に注

目をしていたのだという。

「空間と調和しながらも、繊細な色の変化や優しい質感があり、システムキッチンのように常に身近にあっても、心地よさを感じる素材だと思いました。今回、ほかのどの素材でもなくコーリアン®を採用した理由は、その『流れ模様』に、均一なものや画一的な素材とは異なる価値を見つけたからです。その製造方法をお聞きすると、たとえば、お菓子をつくるような方法で色付けをしたり、クランチを混ぜたりしているとのこと。当然、まったく同じ柄はつくれません。それがとても面白く、世界に一つだけしか存在しないキッチンのワークトップになる、というストーリーを考えていきました」。

また、「ステディア」で採用されているアクリル系人工大理石製の「流レールシンク」とコーリアン®のワークトップを組み合わせると、継ぎ目のない一体感のあるワークトップで、高いインテリア性とメンテナンス性を実現できる。

「コーリアン®の加工性の良さ、自社製人工大理石との相性の良さも、今回、特注色を採用させていただいた理由の一つです」とのことだ。



スフレブルーグレー 爽やかなイメージの洗練されたキッチンを演出するブルーグレーの色調に、ふわふわにふくらんだメレンゲのような白い流れ模様が映え、優しさを添えます。



フランホワイト フランスの伝統菓子フランをイメージし、白いクリームが溶け込んだ、やわらかな表情を表現しました。ソリッドなイメージでありながらも温かみを感じさせます。



フォレノワール フランス・ドイツの国境地帯に横たわる「黒い森」を意味するチョコレートケーキをイメージ。シックで存在感あるキッチンを実現する深みのある流れ模様が特徴です。



アマンドナチュラル ナチュラルなホワイトをベースに、アーモンドをイメージした褐色の彩りを流し込みました。磨き上げた自然石のような高級感の中にも、温もりのある流れ模様です。



ティーグレイジュ やすらぎのひとときを与えてくれる香り高い紅茶をイメージした、やわらかな流れ模様が特徴です。落ち着いたグレイージュ色に、白いクランチが映えます。

より強く、もっと美しく。 レジリエンス・テクノロジー™ 誕生

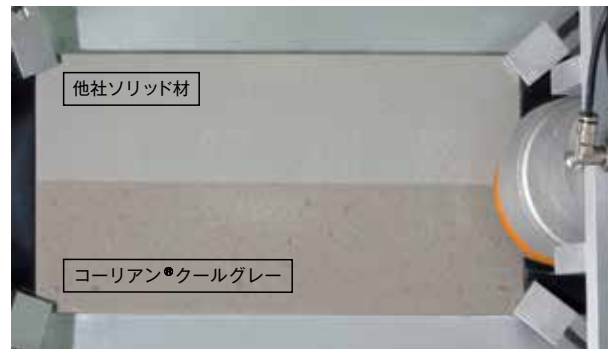
このたび、コーリアン®の研究開発チームによる技術革新のもと、
新技術「レジリエンス・テクノロジー™」が開発され、ダメージにより強く、
汚れや水アカを容易に落とすことができ、メンテナンスの手間もさらに省けるコーリアン®が誕生しました。

「レジリエンス・テクノロジー™」で製造されたコーリアン®は、
商業用途・住宅用途での日常の使用において発生するキズや、熱・衝撃による凹みが低減。
定期的な水拭きとスポンジで軽く磨くことで、表面は新品同様の美しさを長期間保ち、
軽いキズなら水拭きで消すことも可能です。自由な加工性、継ぎ目が目立たないといった
従来のコーリアン®と同じ特性を持ちながら、住宅用途向け同様に、
宿泊施設や教育施設、医療施設や小売店、オフィスや飲食店等の商業用途においても、
更なる可能性の拡がりをもたらす、頼もしくも作業性・加工性に優れた新素材の登場です。

キズへの高い耐性と優れた再生性能 (性能比較/弊社テスト結果)



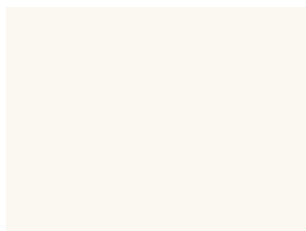
機械を用い4段階の力(写真左から10N、15N、20N、30N)で人為的に擦りキズを施した、再生前の写真。



機械を用い4段階の力(写真左から10N、15N、20N、30N)で人為的に擦りキズを施してから、再生させた写真。

※弊社試験結果によると、10年間通常使用したキッチンカウンタートップのダメージの大半は、10~20Nの力によるものだったことがわかっています。

新しい技術から生まれた4つのニューカラー



コーリアン® サミットホワイト
あらゆる用途を巧みにこなす
ピュアホワイトトーン



コーリアン® ストレイタス
エレガントなグレートーン



コーリアン® キーストーン
コンクリートにインスピレーションを
得て生まれたカラー



コーリアン® クールグレー
大小さまざまなクランチを配した
グレー

※「レジリエンス・テクノロジー™」は特許出願中。 ※詳しくは下記WEBサイトをご覧ください。弊社営業担当までご連絡ください。

CORIAN®
SOLID SURFACE

コーリアン®ニュースはWEBでもご覧いただけます。 www.corian.jp

◎施工事例募集

コーリアン®を使用した施工事例を募集しています。詳しくは下記までお問い合わせください。

MRC・デュポン株式会社

〒107-0062 東京都港区南青山1丁目15番9号 第45興和ビル TEL:03-5410-8551 FAX:03-5410-8501

©MRC・デュポン株式会社 著作権:いかなる形式においても許可無く、本誌の一部または全部の複製を禁じます。©2018 DuPont-MRC Co.,Ltd. All rights reserved.
CORIAN®, コーリアン®, Make Your Space™, DuPont™は、米国デュポン社もしくは米国デュポン関連会社の登録商標または商標です。